

令和5年1月29日～2月2日

海外視察報告書



自由民主党神戸市会インド訪問議員団

神戸市会自由民主党インド訪問議員団の海外視察報告書

令和5年2月24日

自由民主党神戸市会インド訪問議員団 団長 山下てんせい

自由民主党神戸市会議員団は令和5年1月29日より今西神戸市副市長を団長とし、安井神戸市会議長も一員として参加した神戸市インドビジネスミッションと共にインド・アーメダバード市を訪問し、アーメダバード市長やグジャラート州科学技術省次官を表敬するとともにジェトロアーメダバード事務所、日系進出企業、アーメダバード経営者協会、グジャラート州産業公社等を訪問して成長著しいインド企業と神戸の企業との経済交流や人材交流を促進する方策を探るとともに、コロナ下で中断していたグジャラート印日友好協会との間で今後の日印友好を促進するための話し合いを行い2月2日に帰国したところ、本訪問団の海外視察報告書を以下の通り提出する。

1、令和5年1月30日（月）

内容	JETRO アーメダバード事務所訪問
先方	ジェトロアーメダバード事務所 Director 飯田 覚氏 ジェトロアーメダバード事務所 Assistant Director サンチット・オザ氏 ジェトロニューデリー事務所 次長 真田 勇二氏
概要	飯田氏より、グジャラート州の経済概況・神戸・アーメダバードの連携可能性についてブリーフィング

【ポイント】

- インドへの日系企業進出は1,455社（4,948拠点）、グジャラート州は39社（スズキ、ホンダ、ユニ・チャーム、ヤザキ、三菱重工等）
- インドの工業生産高の16.8%（2019年度）
- アーメダバード都市圏の人口1,030万人、市内乗用車保有割合450台/1000人
- 高速鉄道事業（2030年頃開業予定）、農業IT化に向けた日印連携を農水省が推進（農産物の収穫予測など）
- 国際金融都市、国際水準の海事クラスター構想など
- JETROが州政府と覚書締結、日本企業専用工業団地への誘致支援（マンダラ工業団地では豊田通商がサポート、日本式ものづくり学校（JIM）を開設）、州政府のジャパンデスクあり
- 2年に1度、州政府主催の外国企業投資誘致サミット「バイブラント・グジャラート」を開催、ジャパン



パビリオンを設置（見込）

- ・ジェトロアーメダバードでは、業界団体と連携し、州内スタートアップと日本企業のビジネスマッチングを支援



JETRO アーメダバード事務所



顔合わせ



ブリーフィング

内容	アーメダバード市表敬訪問
先方	アーメダバード市副市長 ギタ・パテール氏 (Ms. Gita J. Patel) アーメダバード市副管理官 カルサン氏 (Mr. C. R. KHARSAN) アーメダバード市常任委員会委員長 ヒテシュバイ カンティラル バロット氏 (Mr. HITESHBHAI KANTILAL BAROT) ほか
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年1月の共同宣言に基づく経済交流・人材交流の活発化に関する意見交換を実施 ・アーメダバード市より、世界遺産都市の都市計画に関する取組の紹介(ゾーニング、タウンプランニングオフィサーを配置、土地所有者との交渉により段階的に発展してきた) ・2023年のU20主催について紹介(2023年のG20はニューデリーで開催予定) ・市内参加企業から協力可能性のある事業を提案

(神戸市及びビジネスミッション団)

- ・アーメダバード市との連携を強固なものにしていきたい。
- ・経済交流、人材交流を活発化したい

(アーメダバード市)

- ・訪問を歓迎する。本日を機に、引き続き、意見交換を行っていきたい。



会談風景



記念品贈呈



記念撮影



インディラ・ガンディー国際空港やアーメダバード市内各所で G20・U20 開催を P R

内容	グジャラート州科学技術省訪問
先方	グジャラート州科学技術省次官 ビジェイ ネーラ氏 (Mr. Vijay Nehra) ほか
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネーラ次官より、グジャラート州による半導体産業を中心とした外資誘致の取組紹介 ・ 神戸市とアーメダバード市との都市提携をベースとした、医療分野等での今後の経済交流・人材交流について意見交換を実施

(グジャラート州科学技術省)

- ・ 私は、2020年1月の覚書締結の際に、アーメダバード市の管理官として立ち会った。
- ・ 昨年、グジャラート州の科学技術省次官に就任、日本語でグジャラート州の産業政策を紹介するリーフレットと動画を作成した。
- ・ グジャラート州では、「メイク・イン・インド・フォー・ザ・ワールド」のスローガンで半導体産業を中心とした外資誘致の取組を行っている。電気代・水道代の減免など優遇策がある。グジャラート州はインドの工業生産高の18%以上を占め、物流パフォーマンスも第一位にランキングされている。半導体以外にも、石油、医療、貴金属など科学技術に強みがあるので、神戸市と親和性、連携の可能性のある分野についてアイデアをいただきたい。

(神戸市)

- ・ 2020年、アーメダバード市との間で共同宣言、覚書を締結できたことは、ネーラ長官の尽力の賜物であり、お礼申し上げます。感染症の影響で中断していた経済交流を再開したい。今回のビジネスミッションには多くの企業が参加し、現在、スタートアップとの交流に臨んでいる。
- ・ グジャラート州は医薬品分野でかなりのシェアがあると聞いたが、神戸にも日本最大のバイオメディカルクラスターがあり、連携の可能性は十分にある。一度、神戸医療産業都市をご覧になっていただきたい。

(グジャラート州科学技術省)

- ・ 情報技術、バイオメディカル、半導体、DX等、科学技術省は様々な分野に携わっている。
- ・ 在大阪・神戸インド総領事館のギリ総領事と話をしたところ、アーメダバードと神戸はバイオテクノロジー、エンジニアリングの分野で親和性があると聞いていた。
- ・ バイオテック大学を構築し、イギリスのエジンバラ大学と研究開発の連携を行っている。神戸市内のバイオ関連企業との連携の可能性を探りたい。

(神戸市)

- ・ 医療分野では、大学連携の可能性もある。バイオテック大学の情報をいただきたい。
- ・ WIN WIN の関係を構築していきたい。そのためには、ネーラ長官の協力が不可欠であると考えている。今後もよろしくお願いします。



会談風景



記念品贈呈



記念撮影

マクロ経済指標 - グジャラート州

インドの人口の9%を占めるグジャラート州は、インドのGDPの9%を占める

- グジャラート州のGSDP (現行価格) は、2017-18年から2021-22年にかけて年率10%以上で成長しました。2017-18年のGSDPは1770億米ドルであったが、2021-22年には2890億米ドルになると推定されます。
- グジャラート州は、インドの工場の11%を占め、インドの工業生産高の18%以上を占めています。州のGSVAに占める製造業の割合:35%
- インドの総輸出におけるグジャラート州のシェアは21% (2022年2月までの輸出額は1,126億米ドル) であり、インドで最も輸出の多い州であります。
- グジャラート州は、累計約511.9億米ドルのFDIを受け入れました (2000年から2022年3月まで)

多くの初めてを持つ先駆的な州

- 最先進成者** DPIITによる2020年のビジネス容易性ランキングで最高達成者の一人に選ばれました。
- 最優秀実績** グジャラート州は、インドの工業生産高の18%以上を占め、インドの工場の11%を占めています。
- 1^位** 2021年、2016年、2018年の物流パフォーマンス指数 (LEADS指数) において1位ランキング
- 1^位** NITI Aayogの州の輸出準備指数で2020年 & 2021年1位ランキング
- 1^位** 2021年 良い統治(GGI) 1位ランキング
- 1^位** 2016年、NITI Aayogによる複合水管理指数で1位ランキング

グジャラート州の産業エコシステム



政策主導の姿勢

20以上のセクター別補助政策

 電子支援 (2022)	 産業政策 (2022)	 IT/ITeS政策 (2022)	 半導体政策 (2022)	 生物工学政策 (2022)	 製造物産・物流・サービス政策	 電気自動車政策	 ソーラー政策	 衣類政策
利子補給	開始のスキーム・アップ&イノベーション	生物工学・スタートアップへの奨励金	スキル開発スキーム	技術取得のための支援				
MSMEs向けスキーム	市場開拓のためのスキーム	税制優遇スキーム	投資投資と運用の支援	工業団地のためのスキーム				

グジャラート州半導体政策 2022-2027

▶ 主な財政的奨励策



財政的支援

- 半導体およびディスプレイ製造工場のエコシステムに関する国家スキームにおいてインド政府が承認した設備投資支援額の40%に相当する奨励金を提供します。
- 印紙税と登録料の100%を一括払い プロジェクトには、5年間は1立方メートルあたり12ルピーで、その後5年間は前年比10%増で良質の水を供給します。
- 当初5年以内に海水淡水化プラントを建設する場合、50%の資本補助金を提供します。
- 10年間、1単位あたり2ルピーの電力料金補助です。
- 1958年グジャラート州電気税法に基づく電気税の免除です。

非財政的支援

- 事業活動のしやすさの向上
- プロジェクトは、政府の様々な法律への準拠を促進されます。
- シングルウィンドウ・クリアランス
- プロジェクトは、迅速、積極的、透明な方法で、すべての法的なクリアランスのために促進されます。
- 土地調達の円滑化
- 企業は、抵当権がなく、物流・交通の拠点に繋ぐ適切な開発済み土地の特定と調達を容易にします。
- 道路使用権 (RoW)、土地使用変更 (CLU) 許可
- 政府は、道路使用権 (RoW) や土地使用変更 (CLU) の許可など、割り当てられた土地の調達における様々なハードルを減らすよう努力いたします。

1. グリーンエネルギー

- グジャラートソーラー政策2021: グジャラート州は2022年までに30,000MWのグリーンエネルギー生産目標を設定
- 風力発電: インドで最も高い風力発電能力(9,500MW以上)を有しています。

3. 清潔な環境

- ESG 視覚: 2030年までに温室効果ガス排出量を削減するための ESG 視覚を開発すること
- グリーン・マグス革新的プロジェクトスキーム: 半導体、電解槽、氷素などの分野で、気候変動に対応した脱炭素化の取り組みを行う産業を奨励するスキームです。

2. クリーンモビリティ

- グジャラート EV政策 2021: グジャラート州は、今後4年間で20万台の電気自動車普及させることを目標としています。
- 排出権取引制度 (ETS): グジャラート州は、インド初の排出権取引制度と世界初のキャップ・アンド・トレード市場を実施しました。



Department of Science & Technology
(Government of Gujarat)

DEPARTMENT OF SCIENCE & TECHNOLOGY

Block no.-7, 5th Floor, New Sachivalay, Gandhinagar, Gujarat - 382010

079-23259999 | secdst@gujarat.gov.in / md-gsem@gujarat.gov.in

www.dst.gujarat.gov.in



内容	サバルマティ 駅新幹線ターミナル建設工事状況の視察
先方	NHSRCL アルン クマール シン氏 (Mr. ARUN KUMAR SINGH) ほか
概要	インドにおける新幹線プロジェクトの進捗状況及び建設現場を視察

・安倍晋三元首相とモディ首相会談により開始された DMIC 鉄道計画は、JICA 主導による日印共同開発の新

幹線敷設プロジェクトで、アーメダバード駅予定地およびスーラト駅周辺開発 DMIC 国家プロジェクトが動き出し、ムンバイとアーメダバード間を新幹線で結ぶ計画等、製造業を主要な経済の牽引力とする方向で、2017年に着工、2026年の試運転、翌2027年の営業運転を目指している。

- ・サバルマティ駅はアーメダバード側の終着点となる駅で、在来線・路線バス・新幹線駅の複合ターミナルの建設が進められている。



ターミナル外観



建設計画のご紹介

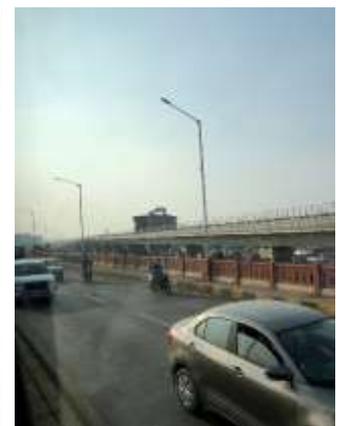
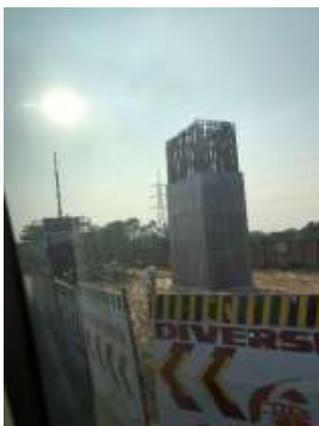


記念撮影



Salient features of MAHSR	
DISTANCE:	508 Kms
NUMBER OF STATIONS:	12 (Sabarmati, Ahmedabad, Anand, Vadodara, Bharuch, Surat, Bilimora, Vapi, Boisar, Virar, Thane, Mumbai)
ESTIMATED TIME:	1 hrs 58 mins (limited stops)
OPERATIONAL SPEED:	320 Kmph (Design speed- 350 Kmph)
OPERATIONAL TIME:	06:00 - 24:00 Hrs
FREQUENCY:	20 minutes-peak hours 30 minutes-non peak hours
ROLLING STOCK	Japanese Shinkansen E-5
ELECTRIFICATION	2x25 KV AC, 50 Hz, Overhead Catenary
TRACK GAUGE	1435 MM, Standard Gauge
SIGNALLING	Automatic Train Control
ALIGNMENT	Viaduct - 460.3 Km (90.6%), Tunnel - 25.87 Km (5.1%), Cut & Fill - 12.9 Km (2.5%) & Bridges - 9.22 Km(1.8%) Total - 508 Km

新幹線建設計画の概要



新

幹線高架の建設状況

2, 令和5年1月31日(火)

内容	MORESCO HM&LUB INDIA PRIVATE LIMITED 視察
先方	Managing Director 真鼻 昌義氏 Assistant General Manager 平口 均氏
会社概要	設立：2017年2月23日 ※工場は2019年7月竣工 資本金：10億円 社員数：66名（日本人3名、ワーカー34名）敷地面積：25,650㎡（建屋8,800㎡） 主要取扱製品：自動車用特殊潤滑剤、衛材用ホットメルト接着剤

■アーメダバードの立地について

メリット

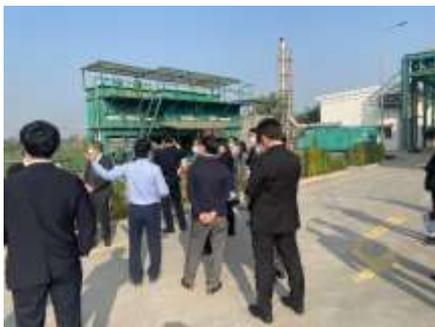
- ・道路インフラが他の地方都市に比べ良好、渋滞も少ない
- ・停電が少ない（ただ、場合によっては終日停電もあり、非常用発電の配置が必要）
- ・治安が良い
- ・主要貿易港から近い（Mundra/Nhava sheva）

デメリット

- ・工事業者や資材調達先の選択肢が主要都市に比べると少ない
- ・労働力の調達
- ・日本食（インド料理以外共通）の提供先が少ない（マンダル地域は良化傾向）
- ・酒類の原則禁止（特に外食では酒類の提供は不可）
- ・日本への直行便がない
- ・コンビニ・ホームセンターがない（インド全土）
- ・娯楽が少ない
- ・夏場の暑さ対策（対策がなければ40℃に達する）
- ・雨水も含めて排水不可のため、自社でトリートメントが必要

■その他

- ・常に余力人員の確保が必要
- ・インド国内でのネットワークという点では、現地業者との合弁会社設立による進出が良い。
- ・円安の影響により、現在はインド国内供給のみだが、今後ヨーロッパ等への供給も検討



現場視察



記念品贈呈



記念撮影

Customer Network



CIN	U24290GJ2017FC095927
Date of Incorporation	23-February-2017
Investors	MORESCO Japan (90%) & MORESCO Thailand (10%)
Total Investment	INR 1,000 Million.
Products	Hot Melt Adhesive & Lubricants
Land Area	23651.50 Sq. Mtr.
Factory Building Area	6612.5 Sq. Mtr.
Green Area	4950 Sq. Mtr.
Address	E-465 & E-466, Industrial Estate, GIDC Sramd II, Ahmedabad, Gujarat, India.



内容	大塚製薬インド(Otsuka Pharmaceutical India Private Limited) 視察
先方	CEO 崎山 基行氏、工場長 三原 篤志氏、品質本部長 岡上 和正氏
会社概要	<p>設立：2013年7月31日</p> <p>※2013年、新設された現地輸液事業会社到大塚製薬工場が資本参加。</p> <p>2017年、全株式を取得し、完全子会社化。</p> <p>資本金:100百万 I N R</p> <p>従業員数:約 840 名（工場 450 名、営業 270 名、本社 120 名）事業内容: 輸液、経腸栄養の製造販売</p> <p>販売範囲：インドおよび世界 50 か国へ販売</p>

■世界の薬局：インド

- ・インドは最大薬品の最大の供給者であり、ワクチン分野で世界シェアの 60%、ジェネリック分野で世界シェアの 20%（米国シェアの 40%）を占めている。



事業紹介



記念撮影

内容	アーメダバード経営者協会訪問
先方	<p>印日友好協会会長 ムケーシュ・パテール氏 (Mr. Mukesh Patel)</p> <p>アーメダバード経営者協会会長 ディーヴィエシュ ラディア氏 (Mr. Deevyesh Radia) ほか</p>
概要	日本庭園視察、JAPAN FESTIVAL 参加

■概要：

- ・1956年設立以来、経営者のスキルアップのためのコースを提供。約 2700 名の個人会員及び 380 の企業会員を有する。建物内にある「アーメダバード経営者協会日本情報・学習センター」の創始者は、グジャラート印日友好協会 ムケシュ・パテル会長。
- ・アーメダバード市で初めての日本情報文化センターで、毎月 250 名以上が図書館を利用。グジャラート州とのパートナーシップにより、情報提供、貿易ガイド、PR 資料等を発行するとともに、輸出業者向けに能力開発やワークショップ、各種セミナーを実施。
- ・2021年6月に、インド・グジャラート州において、グジャラート印日友好協会等が AMA に建設を進めてきた日本庭園「Zen-Kaizen（兵庫・グジャラート友好の庭）」が完成。兵庫県は、2016年11月にグジャラート州と相互協力の覚書を締結しており、両県州のさらなる交流促進を図るため、日本庭園に係る技術指導を行うとともに友好の象徴として兵庫県の特産物である淡路瓦等を寄贈。
- ・訪問した日程はちょうど第 11 回 JAPAN FESTIVAL の開催期間中であり、同フェスティバルの中で本市

ミッション団の歓迎式典を開催いただいた。式典には本市ミッション団のほか、アーメダバード市のテナラサン管理官、グジャラート州科学技術省、在ムンバイ日本国総領事館の深堀総領事やアーメダバード日本人会の方々、グジャラート大学と交換留学プログラムを実施している追手門学院大学の松井副学長他学生も招待、参加。

(参考) 第 11 回 JAPAN FESTIVAL at AMA

- ・北斎&漫画展開催期間：2023年1月21日（土）～2月2日（木）

詳細：https://www5.jetro.go.jp/newsletter/ina/2022/230120_HokusaiManga.pdf

- ・日本映画祭開催期間：2023年1月28日（土）～29日（日）

詳細：https://www5.jetro.go.jp/newsletter/ina/2022/230128-29_JapaneseFilmsFiesta.pdf

- ・Practicing ZEN - KAIZEN

詳細：https://www5.jetro.go.jp/newsletter/ina/2022/230128_ZenKaizen.pdf

- ・Kem Chhe Konnichiwa Musical Fusion & Fun with ORIGAMI 開催日時：2023年1月29日（日）

詳細：https://www5.jetro.go.jp/newsletter/ina/2022/230129_KemChheKonnichiwa.pdf

- ・Japanese Martial Arts Expo

開催日時：2023年1月30日（月）17:00～19:00

詳細：https://www5.jetro.go.jp/newsletter/ina/2022/230130_MartialArtsExpo.pdf



JAPAN FESTIVAL 案内



施設紹介



日本庭園の視察



記念撮影

内容	アーメダバード市長との面会
先方	アーメダバード市市長 パルマー氏 (Mr. KIRITKUMAR JIVANLAL PARMAR)、印日友好協会会長 ムケシユ・パテール氏 (Mr. Mukesh Patel) ほか
概要	パルマー市長と面会し、今後の両市間の連携方針について確認

- 会談内容：
- (アーメダバード市)
 - ・歓迎の意を表する。
 - (神戸市)
 - ・アーメダバード市との連携を強固なものにしていきたい。



面会の様子



記念撮影



記念品贈呈

内容	アーメダバード市管理官との面会
先方	アーメダバード市 管理官 テナラサン氏 (Mr. M. THENNASAN) 印日友好協会会長 ムケシユ・パテル氏 (Mr. Mukesh Patel) ほか
概要	テナラサン管理官と今後の両市間の連携意思を再確認

- ジャパンフェスティバルのエンディングで神戸市、アーメダバード市双方がスピーチ (アーメダバード市)
 - ・ 神戸からのデリゲーションを歓迎する。アーメダバード市と神戸市の姉妹都市の経済、人材、文化の連携を強めていきたい。
- (神戸市)
 - ・ 温かい歓迎に感謝する。感染症の影響で中断していた両市の経済、人材、文化の連携を強めていきたい。



今西副市長挨拶



管理官との歓談



記念撮影

3, 令和5年2月1日(水)

内容	GESIA IT ASSOCIATION 視察・意見交換
先方	Chairman/Director プラナフ・パンディア氏 (Mr. PRANAV PANDYA) 前 Chairman/Director テジンデル・オベロイ氏 (Mr. TEJINDER OBEROI) ほか
概要	グジャラート州の IT 関連の業界団体である GESIA のインキュベーター施設を視察、GESIA 及び入居スタートアップ企業との意見交換を実施し、GESIA と神戸市との今後の相互連携の可能性について議論した。

- GESIA 及び DEVX について
 - ・ グジャラート州の IT 関連の業界団体で、「グジャラート州の IT 産業の地位を国内外で強化し、参加者及び幅広いコミュニティに次世代の機会を提供すること」を理念に、州政府の IT ポリシーや半導体ポリシーなどの立案に関与。
 - ・ DEVX はコワーキングスペース、アクセラレーター、インキュベーターの施設となっており、高度技術のスタートアップやその他企業の技術部門等が入居。その多くが製造業に技術提供している。
 - ・ デリーやハイデラバードにも同様の施設を構え、すべての施設で 20 万㎡を超える全印トップ 10 に入る

企業が運営。

- ・グジャラート州では、ICTに精通した若い起業家が多く、特にコロナ以降、製造業におけるICTの導入が進んでいる。



GESIA インキュベーター施設「DEVX」の視察

■GESIA の活動

- ・ITと電子機器のハイブリッド企業（20年前からグジャラート州で発展）、ITC企業が主に参加する業界団体で、以下の6つのグループに分かれて活動。

①思想のリーダーシップ（Thought Leadership）

IT・電子機器業界の声を聴き、州政府や大企業と連携し、その方向性を提示する。

②市場開拓（Market Development）

政府機関や海外関係機関と連携し、様々な展示会に出展するなど、ネットワークを拡大

③産業発展（Industry Development）

参加者間のマッチング、知識・知見の共有、政府機関とIT企業の仲立ち（政府機関による支援政策の案内、IT企業の要望の取りまとめ）

④能力開発（Talent Development）

スキル養成、セミナー開催、産学連携の推進

⑤政策提言（Policy Advocacy）

産業界の指針策定及び改善を目的とした政府機関との調整

⑥支援サービスの提供（Enabled Services）

法律、人事労務、マーケティング、CSR、広報等の支援サービス

■神戸市との連携事業として以下の可能性が話し合われた。

- ・インドのスタートアップ企業やイノベーターと神戸の中小企業のマッチング
- ・インドのテック技術導入に向けたサポート
- ・インドのスタートアップの資金調達
- ・神戸のICT・電子機器業界団体との相互連携
- ・セミナー・交流会の開催
- ・相互の市場情報の共有



■入居企業によるプレゼンテーション①: Plutomen

- ・製造業界で技術者の多くが引退してしまう危機にある中、遠隔操作・監視等を3DでビジュアルサポートできるITシステムを提供（1/30に訪問したKHS社がこの会社のシステムを導入）。
- ・創設9年で、従業員37名
- ・インド政府の支援しているITシステムのTOP5に入っており、JETRO等からも支援を受けている。
- ・2024年には日本進出予定で、YOKOGAWA・三菱電機とパートナーシップを提携し、技術連携のうえ展開予定。
- ・日本企業との連携には2つの課題。
 - ①言語的な障壁
 - ②スピード感の違い（スタートアップは週単位での動きが必要）・基本料金は1.5万ドル/年



■入居企業によるプレゼンテーション②: Redicine

- ・2人に1人が定期的な投薬が必要となっている現代社会において、適切な投薬管理が可能となるシステム・機器を提供。
- ・150gの薬を管理できるモバイル機器で3,000円、300gの薬を管理できる通常機器で6,000円



GESIA の活動紹介



入居企業による事業説明



記念撮影

4、議員団代表所感

(1) インドとの経済交流や人材交流におけるさまざまなキーパーソンと接触し関係を構築することができ、今後の交流促進につながる訪問となった。

また、アーメダバード市及びグジャラート州における日本企業の進出状況やその際の課題、インドの製造現場における DX の導入状況を把握することができ、今後の市内中小企業のインド進出やインド企業との連携に向けて、有意義な情報収集の機会となった。アーメダバードが強みを有する製造業と IT の連携、また神戸が強みを有する医療産業、まずはこれら、相互の強みを活かせる分野から、事業の連携可能性を検討したい。その他の分野についても、今回、訪問した様々な組織、団体と、人材・経済交流の可能性を協議し、発展するインドの活力を神戸経済の活性化に結び付けていきたい。

(2) 印日友好協会のムケーシュ・パテル氏とは 2014 年に訪日された時からのお付き合いである。その間アーメダバード市に 4 回訪問したが、日本のお土産や書籍を集め、パテル氏を取りためた写真や映像とともに展示しているジャパンセンター、日本語講座や日本文化研究の教室、そして兵庫県との協力を得て建設した日本庭園など、AMA（アーメダバード経営者協会）の敷地いっぱい日本愛があふれている。こういった施設が存在することは、訪問する我々にとってもありがたく、アーメダバードを訪れる神戸ならびに日本の皆様にはぜひ頼りにしていただきたい。

日印友好神戸市会議員団との 8 年にわたる友好活動の結果、日本を愛するアーメダバードの要人と数多く出会い、親交を深めることができた。次はこの友好の上において展開される、数多くの交流を深めるステージとなると思う。具体的には学術や教養、文化やスポーツ、政治的な相互理解といった人的交流から始めていくことになろうかと思うが、企業の進出やカウンターパート探しといった部分も頑張っていかなければならない。

いずれにしても今後もアーメダバード市を訪問し、見聞を深めながら、神戸市そして日本国との橋渡しを続けていく所存である。